

トンガ (Tonga) 王国国民の憂い  
(首相が中国に国を乗っ取られると発言)  
(第4回、最終回) 関東支部 浦野勝雄

今回はトンガのメイン産業である、農業、漁業、観光業の現状と問題、国の開発計画の概要です。

トンガ経済の実態は第1回でも触れましたように、2018年世界銀行のデータによるとGDPはUSD450mill, 輸出額はUSD 19.1mill, 輸入額はUSD 203.6mill, 輸出入差はUSD184.5mill, 送金はUSD294millです。新しい産業は生まれず、失業率も減らず、海外からの出稼ぎ者による送金がないと成り立ちません。



ババウ諸島

## トンガの開発計画

トンガは四ヶ年計画（Strategic Development Plan）を作成し問題解決をはかってきました。2006年から2009年まで4年間の国家計画 Plan 1～8を作成し実施してきましたが、2009年当時の TSDF（Tonga Strategic Development Framework）は Plan 8のステージでした。その概略内容は次のようなものでした。

- ① 環境に配慮した経済開発
- ② 教育水準の向上・健康文化の発展
- ③ 生活水準と質の向上
- ④ 海外援助を利用して貧困削減を目指す
- ⑤ 企業の開発・失業率を低下させる

素晴らしい計画ですが具体的にはどれをとっても難しいものばかりです。①と⑤の関係もよく分かりません。

特に④と⑤が気になりました。④の「海外援助を利用して貧困削減を目指す」とは、他国の援助をもとに貧困削減ができるのか、どんなことをしようとしていたのでしょうか。外国から借金をして現地人の仕事が継続的に増えるようなことが出来れば、可能かもしれませんが、そのような事例は見えません。

借金で箱物を建設したり、過大なインフラ設備を建造したりしたら、維持費さえも捻出できないかもしれません。援助を当然のごとく貧困削減計画に入れることが、債務超過になる遠因かもしれないと思っています。一過性の貧困対策にはなるかもしれませんが、継続性がありません。ではどうしたら良いかと言う命題は残りますが。

⑤の「企業の開発・失業率を低下させる」が一番重要かと思いますが、新しい産業は生まれていません。海外からの支援はこの計画に使用すべきだと思います。

2009年 Plan 8 まで来ましたが、最も基本的なこのような問題が2016年にまだ解決されていません。逆に GDP に占める送金の割合が前よりも大きくなり、送金に依存する割合が大きくなっています。いかに目標完遂がこの国では難しいかが分かります。

トンガをはじめ太平洋の独立島国は何処もほぼ同じ特徴（問題）を抱えています。独立前は自給自足的な生活を送っていたが独立後西側の生活様式や各種情報が入ってきて生活が変わりました。外国へ輸出する物は無いが、輸入する物は多く、トンガでは輸出入の差が大きく、この差を改善する良い手立てがありません。差額は外国の支援と送金で穴埋めしています。外国へ出稼ぎに出た家族からの送金、外国からの援助、支援に頼らざるを得ないのです。このような経済を MIRAB 経済と言うそうです。

（Migration：移民、Remittance：送金、AID：援助、Bureaucracy：政府部門）

海外からの支援、借金を頼りにしていると、スリランカのように港湾の運営権譲渡のようなことになりかねません。

今年（2021年）1月駐日大使として着任したスリランカのグナセーカラ大使は日経新聞（2月1日）で、中国へ返済に窮し、南部のハンバンタト港の運営権を99年間譲渡したのは「ほかに無条件で融資してくれる国がなかったためだ」と話しています。返済条件を考慮しなかったのか、設備の採算性を計算しなかったのか分かりませんが、トンガでも気を付けないと、このような状態に陥ることになりかねません。

## トンガの産業

トンガの主産業は農業、漁業、観光、（送金）です。これら産業の現状と問題点を見えます。

### 〔農業〕

おもな輸出農業産物はカボチャ、コプラ、バナナです。中でもカボチャは主要な輸出産品です。全輸出額の70%以上を占めたこともあります。1980年代後半、トンガ国民はカボチャを食べませんが、輸出業者がトンガのカボチャ収穫季節が日本の需要期に合致するので、カボチャを栽培して日本へ輸出することを計画しました。

最初は土地も肥沃であったため、種子をまけば成長し実をつけました。ヤム芋、タロイモ栽培と同じように、種をまいた後はお天気まかせで、日本のようにきめ細かい世話をしないのがトンガ農業です。トンガ農法は自然農法ですから、不良品が多く、輸出できないカボチャの不良率は25%から35%もあったと言います。不良品は豚の餌にしているといます。



キャッサバ畑



タロイモ畑

2000 年前後から 2005 年ころまでは毎年 15,000 トンから 20,000 トン日本へ輸出していましたが、2018 年にはたったの 748 トンまで減少しました。Pacific Island News (2017/3/6\* 1)によると 2003 年には 22,500 トン輸出し、生産者は 800 人いました。

その後不作や、ニュージーランド、メキシコ、ニューカレドニアなど大量生産の競争相手が出てきて輸出が困難になってきました。生産者は 2012 年に 50 人、2016 年には 30 人まで減少しました。日本の農水省のデータによると、2018 年カボチャの輸入は合計 103,000 トンです。ニュージーランドから約 54,000 トン、メキシコから約 43,300 トン、トンガからはたったの 748 トンです。トンガは日本への輸出産品を失いました。

この事例から判るように、トンガ国民は諦めが早く、農法を改良し工夫をして収穫率をあげるなどの努力をしないようです。苦勞してまで生産性をあげる必要を感じていないのかもしれませんが。無競争社会は創意工夫とかイノベーションが生まれにくい素地があるのかもしれませんが。

トンガ政府はようやく 2019/2020 年作成の 4 年間計画事項「Government Priority Agenda 2019-2022」の中で農業の輸出産品の増強をうたっています。

\* 1) Pacific Island News は Matangi Tonga からの引用 (2017/2/22)

### 〔漁業〕

トンガ産業で、もっとも重要と思われるのは漁業です。しかし理由は分かりませんが、あまりやる気がないようです。資源のないトンガで唯一産業開発の可能性のあるのが広い海洋を利用した産業、即ち漁業や養殖業だと思います。ところがトンガの港では魚船があまり見当たりません。ヌクアロファの港の一角に EU の支援で公設魚市場が

1983年に建設されましたが、当初から市場の運営があまりスムーズでなかったことがレポートされています。私が行った時も閑散としていました。名前の分からない魚が商品台上に数匹ずつ陳列してあった記憶があります。

Matangi Toga (2014/1) ニュースによると、2000年ころは30隻のマグロ漁船が活動し年間2000トンくらいのマグロの水揚げをしていたといいます。ところが、2014年現在トンガにはマグロ漁船が1隻だけだそうです。フィジーには100隻、サモアには17隻もあり、獲った魚を外国へ輸出しているそうです。

同ニュースによるとトンガは燃料費が高く、採算がとれないからと言っています。また政府が漁業省を部局に格下げしたから、国民がやる気をなくしたと元漁業省の人は言っていると報じています。JICAも2000年前後、漁船のエンジンや各種漁業産業支援をしたようですが、効果は出ていないようです。



ヌクアロファの魚市場



ババウ島の漁師と大きなイカ

### 〔魚の国内需要〕

昔からの潜水漁法で、魚の価額が輸入コンビーフより割高になり、需要が減り、きつい仕事で漁師が減るといった悪循環になっています。漁船がない、燃料が高価であるなどの理由で近代漁法ができないため、海の幸を利用できていません。懸念されることは、他国の漁師、漁船がこの分野へも入ってくるかもしれません。もう入っているかもしれませんが。前述した「2019年から2022年優先事項」に漁業の強化も入っています。

### 〔観光業〕

資源のないトンガでは、観光業がもっとも有望かと思いますが、あまりうまくいっていないようです。しかし、バルバドス島のように欧米富裕層をターゲットにしたリゾート開発で成功した島もあります。

トンガタプへはヨーロッパや日本の大型観光船が入ってきますが、観光客はホテルを使用せず船内泊まりです。島の中の観光もあまり見るべきところがないし、土産物はないといっても過言ではありませんので、客はお金を使うことができません。私の滞在中も大型客船は一泊するだけで出港していました。

観光で成功している島国もあるようですので、独自性を出せば可能性はあるかもしれません。成功している島国は来島した客をすぐに帰さず、客が長く滞在するように工夫して、滞在型の観光地を作っているようですが、トンガは現在そうなっていません。ババウ島にはリゾート適地がありますが、欧米、日本、豪州、ニュージーランドから遠距離にあり、リゾート地としては問題なのかもしれません。

おもな観光名所としては：

- ・ハモンガ・ア・マウイ：

石の鳥居みたいな遺跡ですが、何のために使用されたかは不明だそうです。



- ・王家の墓地
- ・ブローフォール（波、うねりによる海水が岩の穴から吹上げる場所）
- ・教会建物
- ・キャプテンクックの上陸した場所・・・などです。



ヌクアロファのクイーン・エリザベス



ヌクアロファの飛鳥

トンガは狭い国で、観光すべき場所はないとっていいと思います。ただし、美しい海岸や砂浜で、のんびりと過ごすのには最適です。客が長く滞在しリフレッシュできるような施設が必要でしょう。



海水浴ができるトンガタプ島の南側海岸

以上のように、トンガ主要産業は、現在あまり活気がないように感じました。

#### 2019/2020 予算書 トンガ財務省

トンガ財務省は 2019 年 4 月に 2019/2020 の予算書を発表しました。予算書に政府が実施する優先事項が記述されています。その優先事項（Government Priority Agenda 2019-2022）に計画された項目を下記します。

各部門の右の（）内は 2019/2020 の予算配分です。

1. 公共部門のシステム改良（予算割合 34%）
  - ・法と統治システムの改革
  - ・公共サービスの育成
  - ・行政改革
  - ・政治体制と資金管理の見直し
2. 一般部門の改革（予算割合 7%）
  - ・一般部門の強化
  - ・マーケットと運輸部門の改革
  - ・観光・農業・漁業を改革して輸出品を増大する
3. 不法ドラッグの取り締まり強化（予算割合 8%）
4. 道路・インフラの美化運動（予算割合 17%）
5. エネルギー部門支援（予算割合 7%）
6. 政府のデジタル化（予算割合 1%）
7. 健康（予算割合 10%）
8. 教育の質強化（予算割合 13%）

2006年に発表された開発計画にも教育、健康、環境問題などは記述されています。上述した2項でトンガのメイン産業、観光、農業、漁業の改革をしていますが、予算は一般部門合計で7%の割り当ての中の一つです。これでは農業、漁業、輸出品事業や観光事業の増強をするのは無理かと思われます。



ババウ島のマンゴーの巨木

離島にはこのようなマンゴーの巨木が沢山あります。木の上方につく果実は取れないため、熟れて落ちるのを待っているといます。熟するときがほぼ同じであるため、「一度に沢山収穫できて困る」と言っていました。

木は日陰を作り、談笑や憩いの場となっています。太陽熱を利用してドライフルーツにしたらどうですかとアドバイスしました。

#### 日本の関わり：外務省の支援目的

終わりに日本はどんな支援をしているか見てみます。日本政府の支援の目的は以下の通りです。

外務省は各支援目的に次のように書いています。

『我が国政府は、これまで一貫して、トンガを含む太平洋島嶼国の良きパートナーとして、同地区に対する支援を行っており、この協力もトンガの繁栄と安定に対する日本の協力として実施するものです。』

支援には無償支援と有償支援があります。下表は平成 20 年から令和 2 年までに日本がトンガに与えた直近 12 年間の無償資金援助額です。

表 日本の無償援助額（平成 20 年～令和 2 年）

部門	額（億円）	備考
エネルギー関係	42.63	太陽電池、風力発電建設
病院改造	19.89	
埠頭改修	33.2	
島間連絡船建造	16.76	
防災システム	29.61	
器具等	9.5	輸出入差額補填に相当すると思われる支援
医療機器	1.5	
道路整備	1	
合計	154.09	

出典：外務省 ODA

平成 20 年から令和 2 年までに日本がトンガに与えた無償資金は約 154 億円です。年平均 12.8 億円です。

その内容は表からわかるように農業、漁業、観光支援に関してはありません。トンガにとってはすべて必要なものかもしれませんが、エネルギー分野を除いてトンガの経済増強に直接資する支援は無いように感じます。

個人的にはもっと産業を再生させるような支援が必要と考えています。例えばカボチャの再生産、生産方法またはカボチャに代わる作物の選定支援、漁業ではマグロ他漁業の復活対策などです。



太陽電池 マイクログリッドシステム（1MW）

上表のエネルギー関係で建設した物件で、ヌクアロファから空港へ行く幹線道路沿いにあります。右へ行くとヌクアロファです。看板には JICA と日本国民からの贈り物と書いてあります。

### 島国の選択肢

このような島国はどうしたらよいのでしょうか？ ポヒヴァ首相が心配したように、国民が真剣に考えないと、将来の道筋が見えない状態です。

食と職を満たす産業を考えてみても、不可能ではないでしょうが、難しい問題です。開発段階でまず発達する繊維産業を考えても人口が少ないため労働人口不足、又国内消費も期待できないし、輸出も輸送がネックになり他国との競争にさらされ勝ち目がありません。

国の行く先はトンガ国民が考えることですが、外国の干渉を受けず、自立した国を造るにはどんな選択肢があるのでしょうか。

- ・従来通り送金と援助金を受け続ける。
- ・将来自立するために画期的な産業を育成する。
- ・旧宗主国と新しい関係を作る。
- ・新しい宗主国と新しい方法で関係を作る。
- ・ポリネシア連邦国を作る。

など、など、いずれ選択しなくてはならないときがくるでしょう。どんな国を作るのか注視してゆきたいと思います。

国家の要件は国際法（Wikipedia 参照）によると、モンテビデオ条約第 1 条に永続的住民、明確な領土、統治する政府、外交能力の 4 要素が必要です。

これらの 4 条件を満たしているかどうか分かりませんが、外国から継続的に支援されなければ生活できない国が「自立的に国家運営をしている」のか疑問です。

国の経済基盤を健全にし、かつ国民に職と食を与えることができることが「統治する政府」ではないでしょうか。



カメラを向けたらポーズをとってくれた



かわいらしい姉妹と友達

島の子供たちを見てください。みな素晴らしい笑顔をしています。  
この子供たちが幸せな生活を送れるように祈って4回の連載を終わりにします。

長い間お読みいただき、ありがとうございました。



Lagoon の夕焼け ロッジより

(2021年3月15日)